

今日のみ言葉 249 「地の果てに至るまですべての人が」 2015. 4. 13

我らの救いの神よ、…

遠い海、地の果てに至るまで

すべてのものが、あなたに依り頼む。

御力をもって山々を固く据え

力を身に帯びておられる方。

あなたは海のとどろき、大波のとどろき

国々の騒乱を鎮める方。 (詩篇65の6～8より)

O God our Savior, the hope of all the ends of the earth and of the farthest seas,
By your strength you hold the mountains steady, being clothed in power,
You silence the roaring of the seas, the roaring of their waves, the tumult of
the peoples.

私たちはこの揺れ動く世界、悪の力が至るところにみられる世にあってここからの救いを求める。私たちのあらゆる苦しみや悲しみ、また悩みはそうした悪の力に翻弄されることから生じてくる。いかに自然的な災害からの苦しみであっても、そこに神からの助け—聖霊が豊かに与えられるならば、絶望は消え、その苦難に耐えるためのあらたな力が与えられるからである。

この詩の作者は、そうした全世界から無数の人々が叫び、祈る声を霊的に実感してきたのであった。この世の目に見えるいっさいは揺れ動き、変質していく。だが、神はその永遠に変わらぬ本質を保ちつづけ、その万能の力を示している。山々は、ことにその神の力を象徴的に指し示すものである。

「わたしは、山に向って目を上げる。わが助けはどこから来るか。天地を創造された神から来る。」 (詩篇121) 山こそは神の不動の本質を我々に語りかけ、身近に感じさせてくれるものである。

神は単に変質しないというだけでない、その不動性、また大波のとどろきにみられる神の力の大きさは、またその不動の力をもって私たちを変ることなく愛し、支え、担いつづけてくださる。

神の力は、さらにそうした不動の姿や大海のとどろきだけでなく、また植物のさまざまな花のような繊細な美をも創造する力をもっておられる。

そしてそのようなさまざまな意味において大いなる力をもっているゆえに、私たちのあらゆる困難に際しても、道を開き、その困難をも乗り越えていく力を与えてくださると信じることができる。

それゆえ、地の果ての人たちも この神により頼んできたしこれからもこの神に希望を持ちつづけていくことをこの詩は語りかけている。そしてそれはまたこの詩の作者の背後におられる神からのメッセージそのものなのである。



ツツジの仲間で、このように丸い形になって、純白の15個前後の小さな花が咲き揃うというのは、このイソツツジのほかにはほとんどありません。花壇などでも見かけるコデマリに似た形になっており、葉は厚い皮質となっています。

これは、高さ40cm内外で、東北地方と北海道の高山地帯に見られる植物です。そのために、西日本のような暖かい地方ではまったく見られない珍しいものです。

ツツジには多く種類があり、山野や公園の花壇などにもいろいろあり、高山植物だけにかぎっても50種類ほどもあるという豊かな多様性をもった植物です。

一つ一つの花を見ると、ツツジとは思えないような花の形をしています。葉はシャクナゲに似ているので、シャクナゲを知っている人は、これがツツジの仲間だとわかります。

北国の高山に咲くこうした植物は、長い歴史のなかでは、ずっと人間が見ることもほとんどなかったと思われます。近年になってようやく山の麓に至る車道が整備され、さらにケーブルカー、ロープウェイなどができて、幾万年も人の知らなかったようなこうした植物にも触れる機会が与えられるようになりました。

このような高山植物の花を創造された神は、人が全く見ることはできないようなところにも、はるかな昔からこのような清い美しさを持った花をそなえられています。

これは人間世界でも感じられることで、ほかの人の目に触れないところで、人知れず、神への深い信仰をもって清められた魂がいるということを思います。

神は人が見ていようと見ていなくとも、その深い御計画に従って自然の世界にも人の世界にもよきものを創造されているのを思います。

(文・写真ともT. YOSHIMURA)



(イソツツジの咲いていた所、大雪山（旭岳）が背後にある。)